

理工学部

【2025 年度 大学評価総評】

理工学部は、2024 年度の評価結果が示す通り、現状に留まらず、不断の改革と改善に多角的に取り組んでおり、その努力は高く評価できる。特に、企業、自治体、同窓会との強固な連携のもと設立・運用されている「法政大学理系コンソーシアム」は、学生支援から社会貢献に至るまで成果を上げており、全学的なモデルケースと言える。これにより、学習意欲や卒業生の社会的評価向上を目指す姿勢は明確で、今後のさらなる発展が期待される。

教育課程では、コロナ禍で中断していた学部独自の海外留学制度を「グローバル PBL」として再開し、学生の国際的学習成果に寄与しており、2025 年度の本格運用による規模拡大と内容充実が期待される。ディプロマ・ポリシーの達成状況把握では、キャリア相談会のアンケートや学生モニター制度を通じた情報収集とカリキュラム検討のためのフィードバックが特筆される。ディプロマ・ポリシーの達成度にばらつきが確認され、低い分野への対応については、すでに行っているアンケートや学生モニター制度や他の測定方法を使いながら、引き続き多角的に達成状況を確認し改善を検討していくことが求められる。

教員組織では、実験授業における TA 活用による丁寧な指導体制も特色である。

オンライン教育や IT ツール活用事例の共有・検証も望まれる。また、2025 年度の入学者定員超過が転編入制度に与える影響の精査も重要である。

総じて、理工学部は現状や成果、課題を適切に把握し、それに基づく改善・向上に着実に取り組んでいる。これらの指摘を踏まえ、さらなる教育・研究の質向上サイクルにつながることを期待したい。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

全体的に現状に留まることなく、不断の改革、改善に様々な方法で取り組んでいて高く評価できる。2024 年度自己点検・評価シートについては、着実な編入制度の導入、法政大学理系コンソーシアムの主導的な設立を実現して全学的にも評価されるべき重要な改革がなされている。とりわけ後者に関しては、企業、自治体、同窓会等との強固な連携を図りつつ、学生に対して入学から就職に至る一貫した支援体制を構築しており、学力レベル、教育・研究効果、社会的評価のいずれの面でも有効な改善を企図して推進している点が素晴らしい。特に、キャリア相談会において、本学部のディプロマ・ポリシーの達成度をどう評価しているか、参加企業側にアンケート調査を実施している点が注目される。

また、2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書では、目標の設定と改善策との間に整合性がとられている。特に、オンライン教育を含めた授業方法の向上や法政大学理系コンソーシアムによる社会貢献が目指されており、加えて多様な課外活動に対する新しい学生支援体制の模索も大いに期待できる。さらに、2024 年度中期目標・年度目標においても、2023 年度を全体的に継承しつつさらなる改善を目指すことが確認でき、特に SA の再開による海外での教育実績強化と、関連する課外活動の活性化は今後大いに期待できる。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

引き続き理系コンソーシアムとの連携し、キャリア相談会の開催や就職後の卒業生へのアンケートを実施する予定である。また、キャリア相談会における企業や自治体と学生との交流に加え、研究活動に関しても企業側への情報提供を行って行く予定である。SA に関しては、本年度からは本格的な運用の実施を目指し、グローバル PBL の企画検討を行い実施する。3 年次編入を昨年度から実施し、2、3 年次転編入に関しては本年度で 2 年目となる。定常運用に向け状況を精査する予定であるが、2025 年度の大規模な入学者定員超過があるため、本制度の学部からの評価を勘案して運用する予定である。

(2) 改善・向上の取り組み (教育課程およびその内容、教育方法)

<p>アセスメント・ポリシーに基づき、ディプロマ・ポリシーに示した学習成果を把握しましたか。結果を学部としてどのように評価しましたか。</p> <p>＜対応する大学基準：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。＞</p>	<p>S. 学習成果が達成できていることが確認できた A. 学習成果が概ね達成できていることが確認できた B-1. 学習成果が達成できていないものがあつたことを確認できた B-2. 学習成果の達成度を確認するには、測定方法が不十分であることが確認できた B-3. ディプロマ・ポリシーの見直しの必要性を確認できた</p>	<p>A（学習成果が概ね達成できていることが確認できた）</p>		
<p>上記の選択をしたのはなぜですか。実施主体、測定対象や測定方法を踏まえて理由を具体的に記入してください。</p>				
<p>＜理由＞ 卒業論文、単位修得状況、成績評価等を用いて評価を行っている。特に、卒業論文では各研究室での研究活動を通して学生の状況を把握するとともに、卒業論文審査会等で最終的な学習成果を学科で総合的に評価している。キャリア相談会において、「企業に就職後の本学部卒業生に対するアンケート」および「企業から見た本学部卒業生に関するアンケート」を実施し、その結果からディプロマポリシーの達成度に対して肯定的回答をしている卒業生の割合を確認した。 また、「学生モニター制度」を活用し、転編入後の学び等に関し転編入学生から直接意見を聞くことにより、状況を確認した。</p>				
<p>教育課程およびその内容、教育方法について、学部として過去4年間（2021年度～2024年度）の中で特に改善・向上に向けて取り組んだ事例について、①～⑩の項目から＜改善した項目＞を選択し（レ点チェック）、その詳細について＜改善内容＞＜改善した結果良かった点・課題＞を記入してください。 ＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>				
<p>事例</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>＜改善した項目＞ （複数選択可）</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input checked="" type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他 </td> </tr> </table>			<p>＜改善した項目＞ （複数選択可）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input checked="" type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他
<p>＜改善した項目＞ （複数選択可）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ①開講時期、開講頻度、授業時間等 <input type="checkbox"/> ②授業科目の内容（目標、内容、開設授業科目数、授業科目の統廃合） <input type="checkbox"/> ③授業科目の関係（各科目間の関係、ナンバリング、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、履修系統図等） <input type="checkbox"/> ④教育方法（授業の形態、授業方法等） <input type="checkbox"/> ⑤評価基準、評価方法 <input type="checkbox"/> ⑥学生の履修（履修科目の登録上限、履修順序、必修科目と選択科目の設定、配当年次等） <input type="checkbox"/> ⑦地域社会・国際社会・産業界等の社会との接続、大学院教育との接続 <input type="checkbox"/> ⑧学習支援（単位の実質化のための取り組み、各種相談・サポート、学生の主体的な学習を促す取り組み） <input checked="" type="checkbox"/> ⑨留学、インターンシップ、フィールドワーク等プログラムの充実 <input type="checkbox"/> ⑩その他 			
<p>＜改善内容＞ ※理由を含めて記入してください。 コロナ禍により中止していた学部独自（生命科学部との共同）の海外留学制度を再開させた。これまでの語学留学ではなく、PBLを海外にて海外学生と共に行うグローバルPBLという留学内容として、理工系に相応しい実施形態を実現した。</p>				
<p>＜改善した結果良かった点・課題＞ 参加した学生の現地での積極的な活動、他国からの参加した学生との深い交流を実現出来た点は良かった。一方、現地での受け入れ状況や準備を含めたスケジュールに余裕が無かったため、小規模なスタートとなった。今後はより充実した実施としたい。</p>				

（3）改善・向上の取り組み（教員・教員組織）

<p>教員・教員組織について、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを＜項目＞の中から選択し、＜内容＞を記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織に対する取り組み※ ※主に、教員が担う責任の内容、科目適合性の学内での判断、各教員の担当授業科目、担当授業時間の把握・管理（複数の所属、他大学・企業等との兼務教員について業務状況や教育効果含む）について ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みとその成果

<p>・授業における指導補助者（TA等）の活用に対する取り組み</p> <p>＜対応する大学基準：教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。＞</p> <p>＜対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。＞</p> <p>＜対応する大学基準：教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	
《特色または課題》	特色
《項目》	授業における指導補助者（TA等）の活用に対する取り組み
<p>《内容》</p> <p>各学科における実験の授業において、TAを活用し各学生に対してマンツーマンの対応を実施している。TAに対しては、実験の授業開始前に実験における必要となる知識、手順を事前に確認、教育することで実験時の学生に対する学習効果を高めるようにしている。また、実験によってはミスの発生の可能性もあるため、安全に対しても十分配慮する様に指導している。</p>	

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

<p>学部における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p> <p>＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み込んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
《内容》		

(2) オンライン教育の取り組み

<p>オンライン授業は「2024年度以降の授業編成における留意点について（報告）」（2023年度第6回学部長会議資料 No. 7）に沿って、適した授業科目に用いられ、その有効性や教育効果を確認し、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み込んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
《内容》		

(3) 学生の声を活かした取り組み

<p>学部レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み込んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p> <p>Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。</p> <p>Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
《内容》		
<p>授業レベルにおいて、学生の声を活かした改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み込んだ</p> <p>A. 概ね従来通りである又は特に問題ない</p> <p>B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。</p>		

Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。
Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。
《内容》

Ⅲ. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	内部質保証	
中期目標	内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。	
年度目標	オンライン資料等の効率的利用	
達成指標	オンライン資料等の効率的利用法提案	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	オンライン環境の利用、書類の電子化により効率化等を実現した。
	改善策	オンライン化した処理に関する運用状況のフィードバックを行い、より良い仕組みの構築を引き続き実現していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン環境の利用、書類の電子化により特に承認や、申請などで目に見える効率化を実現している。 ・一方、点検案としてその効率化の具体的な内容が示されていない。
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、可能な部分から積極的に効率化を進めることが望ましい。 ・効率化に伴う弊害なども分析することにより、実質的な効率化を図ることが望まれる。 	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLAC との連携強化。	
年度目標	SA 制度の再開・今後の展開の検討	
達成指標	海外での教育実績	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	グローバル PBL(海外における海外学生とで行う理系 PBL) をマレーシアで開催し学生を派遣した。コロナにより中断していた海外での研修の再開を果たした。
	改善策	2025 年度は昨年度のグローバル PBL の SA としての実施を実現する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中断していた海外での研修を、グローバル PBL という理系学生にとって有益な形で、再開したことは高く評価できる。 ・一方で小規模にとどまっているため、SA の復活など、より多くの学生が参加できるプログラムの復活を望む。 ・国際化に対応する学科カリキュラムの検討も必要である。
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル PBL や SA を学生の安全を確保し、担当者の負担を極力抑えながら継続的に実施できる体制の構築が望まれる。 ・国際化に対応する学科カリキュラムの検討が望まれる。 	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	オンライン教育環境の活用	
年度目標	オンライン教育関連活用事例の共有・在外研究時での活用の検討	
達成指標	オンライン環境の活用事例および関連する IT ツール使用例の理系学部間での情報共有	
年	教授会執行部による点検・評価	

度 末 報 告	自己評価	A
	理由	Halo を利用した教育方法の検討. 例えば, ディプロマポリシーの見直し, SA プログラム等における学生選抜の参考資料として利用した. また, 海外滞在中の学生に対する Zoom などを利用した教育・研究指導事例もある.
	改善策	執行部会議内での共有にとどまったため, 教授会などでの共有も進める.
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・Halo を用いたディプロマポリシーの見直しや, 種々のプログラムでの学生選抜のための活用は評価できる ・一方, Halo の活用方法は広く周知されていない。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・Halo の活用事例が少なくその有用性の検証が不十分であり, 多くの事例の公開が望まれる。 ・また, 生成 AI などを含む IT ツールの情報共有も効果的かと思われる。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。	
年度目標	卒業生の所属先からのディプロマ・ポリシーの達成状況の確認	
達成指標	データの収集および分析から達成状況を把握する	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	キャリア相談会に参加した卒業生にアンケートを実施し, 企業からみた各ディプロマポリシーの重要性ならびに達成状況の確認を行った. その結果, 達成度にばらつきがあることが分かり教授会にフィードバックした。
	改善策	達成度が低い分野の原因についてさらなる意見を得られるようなアンケートを実施する.
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア相談会において卒業生から生の情報を得て, ディプロマポリシーの重要性・達成状況を確認できたことは高く評価できる。
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・達成度の低い分野について情報提供を行い, 実際のカリキュラムに反映させる本質的な手立てが必要と思われる。 	
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	編入学生の受け入れ態勢の構築	
年度目標	2 年次編入制度の運用状況評価	
達成指標	2024 年度に転入した 2 年次編入学生へのアンケートの実施	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2024 年度に転入した 2 年次編入学生へのアンケートの実施した. 初めての編入制度の実施のため, 情報伝達において不十分な点等があることを把握することが出来た.
	改善策	指摘された情報伝達の問題点を解消し, また今年度の学生の声などを広報していく.
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査が確実に実施され, 結果は第 194 回教授会資料にて教員に共有されている。学部として初めての編入生の受け入れであり, アンケート調査とその結果の吟味は望ましい対応の一つと言える。
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・自由記述欄に詳しく書いてくれている編入生もおり, その内容は学部側に有益な指摘であったと言える。今後もアンケート結果をフィードバックしてよりよい受け入れ態勢などを検討頂きたい。なお, 上手なアンケートを設計することにも引き続きご留意頂きたい 	

評価基準	教員・教員組織	
中期目標	年齢構成を適正化する。	
年度目標	後任人事において、現任教員の年齢分布に配慮し、採用活動を行う。	
達成指標	年齢分布の均等化	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	概ね40代前半の教員を採用することを目標に人事を行い、それを達成した。
	改善策	引き続き後任人事において、現任教員の年齢分布に配慮し、採用活動を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・執行部等の主導により、専任教員の平均年齢を引き下げることが望ましいという考えが各学科に一層浸透してきているとみられる。
改善のための提言	・各学科の専任教員の平均年齢分布を執行部で算出し、執行部会議等、適切な場面で学科主任には提示するなどの工夫がまだなされていないのであれば、その試行を検討頂きたい。	
評価基準	学生支援	
中期目標	学生に対するサポート体制を充実させる。	
年度目標	引き続き課外活動の支援を行う。	
達成指標	課外活動の活性化	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	新人歓迎や小金井祭など多くのイベントの対面実施が従来通り開催された。
	改善策	今後も、コロナ前を上回る状況となるよう、更なる支援や過剰な規制を緩和する必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・学生企画の多くのイベントがコロナ前の状態にもどってきたことは大変望ましく、執行部による点検・評価どおりである。
改善のための提言	・学園祭についてはどのような支援ができる、といった記述があれば、更に良いと思われる ・引き続き、学生の課題活動への理解と柔軟な対応を望みたい。	
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。	
年度目標	運用を開始した理系コンソーシアムと連携を開始する。	
達成指標	キャリア相談会など2回以上のイベントを実施	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	一般社団法人として設立した法政大学理系コンソーシアムを主体としてキャリア相談会や法政科学技術フォーラムを開催し、100社を超える企業様や卒業生にご参加頂いた。
	改善策	学生の成果発表会のさらなる活性化を進め、企業、自治体、卒業生の皆様の参加数向上を図る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・理系コンソーシアムの効果的な運用は、当初の想定を大きく超える成果を挙げているように見受けられ、執行部による点検・評価どおりである。

改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・参加いただいた企業様などに、「どうすればさらに参加が増えるか」を尋ねる、といった内容もあれば、更に前向きかと考えられる。 ・より発展的な展開が望まれる一方で、継続的に運営できる無理のない体制づくりが必須であると考えられる。
【重点目標】 理系コンソーシアムと連携し、企業、自治体、卒業生からの協力を得て、入学志望者の学力レベル向上、学習意欲の向上、卒業生の評価向上を図る。	
【目標を達成するための施策等】 理系コンソーシアムおよび同窓会と連携し、支援者の拡大を図る。また、キャリア相談会等のイベントを2回以上開催する。	
【年度目標達成状況総括】 理系コンソーシアムおよび同窓会と連携し、企業や自治体との連携拡大を図った。また、キャリア相談会などのイベントを4回開催した。さらに、科学技術フォーラムを開催し、理工学部の研究成果発表会を実施するとともに、今年度からコンソーシアム冠奨学金を導入した。これらの取り組みにより、学生の研究意欲の向上を図った。また、キャリア相談会に参加した卒業生を対象にアンケートを実施し、企業から見た各ディプロマ・ポリシーの重要性および達成状況を確認した。その結果、達成度にばらつきがあることが明らかとなり、教授会へフィードバックを行った。	

IV. 2025年度中期目標・年度目標

評価基準	内部質保証
中期目標	内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。
年度目標	生成 AI の活用
達成指標	生成 AI の活用方法提案
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLAC との連携強化。
年度目標	SA 制度の本格的再開
達成指標	海外での g PBL, SA 実施
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	オンライン教育環境の活用
年度目標	オンライン教育関連活用事例の共有・配慮学生対応等への活用の検討
達成指標	オンライン環境の活用事例および関連する IT ツール使用例の理系学部間での情報共有
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。
年度目標	卒業生の就職後実務に携わった後での自身によるディプロマ・ポリシーの達成状況の確認
達成指標	就職後の卒業生に対するアンケートを実施し、データの収集および分析から達成状況を把握する
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	編入学生の受け入れ態勢の構築
年度目標	3年次編入制度の運用状況評価
達成指標	2025年度に編入した3年次編入学生へのアンケートの実施
評価基準	教員・教員組織
中期目標	年齢構成を適正化する。
年度目標	後任人事において、現任教員の年齢分布に配慮し、採用活動を行う。

達成指標	年齢分布の均等化
評価基準	学生支援
中期目標	学生に対するサポート体制を充実させる。
年度目標	引き続き課外活動の支援を行う。
達成指標	課外活動の活性化について学生センターと協議し、実施案を策定する。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。
年度目標	運用を開始した理系コンソーシアムと連携を強化する。
達成指標	キャリア相談会など2回以上のイベントを実施する。
<p>【重点目標】 理系コンソーシアムと連携し、企業、自治体、卒業生からの協力を得て、入学志望者の学力レベル向上、学習および研究意欲の向上、在学生・卒業生の評価向上を図る。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 理系コンソーシアムおよび理系同窓会と連携し、これまで出来ていなかった高校等との連携を図る。また、キャリア相談会等のイベントを2回以上開催する。</p>	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

理工学部

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）		質保証委員会による点検・評価（教授会報告）		
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
内部質保証	内部質保証について運用体制を見直し効率化を図る。	生成AIの活用	生成AIの活用方法提案	A	学部内資料の生成AIを活用した電子化により事務作業の作業性向上、効率化をテストした。	より良いシステムを目指し新しい技術を取り入れた方法を提案しつつ、実際の業務で活用を通じてブラッシュアップする。	A Iへの正しい理解に基づく、適切な活用は行われるべきであり、大学組織も例外ではない。その第一歩として、学部内資料のAIを活用した電子化をテストできたことは評価でき、自己評価も妥当と判断できる。今後まずは低リスクな業務範囲において、実利用・展開が期待される。	不適切な利用によるデータ流出、誤出力などの危険性を理解し、最大限の注意を払った上で、まずは低リスク作業においてAI技術を積極的に利用していくことが望ましい。各部署で経験・知見を貯めて、共有、活用していくことが必要であると思われる。並行して、組織として安全、効率的にAIを活用していくガイドライン作成が必要と考えられる。
教育課程・学習成果 【教育課程・教育内容に関する事】	国際化、多様化に対応したカリキュラムの検討と構築。KLACとの連携強化。	SA制度の本格的再開	海外でのgPBL, SA実施	A	2025年9月にマラ工科大学ベナン校（マレーシア）でgPBLを本格的に実施した。また、2026年2月にカリフォルニア大学デイヴィス校にて科学技術分野を中心とした英語の学び「English for Science and Technology」、語学・文化コミュニケーションに特化した「Communication and Culture」を実施した。	本年度の実施終了後、参加者の意見も踏まえプログラムのブラッシュアップを図る。	海外でのgPBLやSAを再開できたことで、目標は達成され自己評価も妥当と判断できる。	コロナ前のSAの渡航先であった、母語が英語の先進国への留学にも、以前のようにより多くの学生が参加できるよう、検討を進めていただきたい。また、特定の教員の貢献に頼るのではなく、組織として学生の安全を守りながら継続して実施できる体制づくりが急務である。
教育課程・学習成果 【教育方法に関する事】	オンライン教育環境の活用	オンライン教育関連活用事例の共有・配慮学生対応等への活用の検討	オンライン環境の活用事例および関連するITツール使用例の理系学部間での情報共有	A	学内でのITおよびAI環境を用いた授業等に関するアンケートを実施し、結果を学部内で共有した。	IT, 特にAI分野は技術進展が非常に早い。そのため、引き続き技術動向、教員の活用事例について情報共有を図る。	アンケート結果の共有が報告されたが、どのように現状の改善に結びつけていくのかが重要であり、議論が望まれる。目標は実現できており、自己評価も妥当と判断できる。	教員、事務で活用事例を積極的に増やし、利点、Tips、注意点、課題を共有し、知見を活用できる仕組み作りが必要であると考えられる。まずは時間・コストがかからないspreadsheetなどの活用によるsmall startが望ましいと思われる。
教育課程・学習成果 【学習成果に関する事】	ディプロマ・ポリシーの達成状況の確認とカリキュラム検討へのフィードバック。	卒業生の就職後実務に携わった後での自身によるディプロマ・ポリシーの達成状況の確認	就職後の卒業生に対するアンケートを実施し、データの収集および分析から達成状況を把握する	S	就職後の卒業生に対するアンケートを実施した。就職後の卒業生データから各ディプロマポリシーの達成度については概達成出来ているとの結果を得た。しかし、「外国語によるコミュニケーションが可能であるとともに異文化を良く理解し、グローバルに活躍できる国際性」については身についていない回答も見られた。	今後は、これまでの学習成果を維持出来る体制に加え、十分な教育効果が得られていない項目についてはさらなる改善案などの対応を行う。	卒業生へのアンケート調査とその解析により、目標であるディプロマポリシーの達成状況が確認できた。自己評価も適切になされたと判断できる。	課題として挙げられた、国際性の涵養について、組織的な改善対策の導入が必要であると考えられる。本件含め各種調査結果の要点の各学科へのfeedbackを通じて、2027カリキュラムへの反映を促し、実際に改善につなげる作業が必要である。
学生の受け入れ	編入学生の受け入れ態勢の構築	3年次編入制度の運用状況評価	2025年度に編入した3年次編入学生へのアンケートの実施	A	2025年度に3年次編入した学生に対してインタビューを行い問題点などを調査した。	編入時のガイダンスの日程設定や対応に不十分などについては、日程の調整を行う。	3年次編入生へのアンケート調査を実施し、改善につながる問題点が見つかったことは評価できる。目的は実現できており、自己評価も妥当と判断できる。	今後、単位取得、進級状況などの追跡を行い、受け入れ条件・態勢・単位認定制度の適宜更新の検討が必要である。
教員・教員組織	年齢構成を適正化する。	後任人事において、現任教員の年齢分布に配慮し、採用活動を行う。	年齢分布の均等化	A	概ね40代前半の教員を採用することを目標に人事を行い、それを達成した。	引き続き後任人事において、現任教員の年齢分布に配慮し、採用活動を行う。	各学科の人事において、年齢構成の適正化が考慮された人事が行われたと判断できる。当初の目標が達成、自己評価も適切になされたと判断できる。	引き続き各学科で、適切な年齢分布を考慮した人事を継続していくことが望ましい。

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告				
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）			質保証委員会による点検・評価（教授会報告）	
				自己評価	理由	改善策	所見（達成状況の評価とその理由）	改善のための提言
学生支援	学生に対するサポート体制を充実させる。	引き続き課外活動の支援を行う。	課外活動の活性化について学生センターと協議し、実施案を策定する。	A	学生センターと課外活動の活性化について協議を行い、技術系の課外活動への教員のアドバイスを期待されていることを確認した。	今後も、コロナ前を上回る状況となるよう過剰な規制を緩和し、更なる支援として教員との接点を増やすなどの対応を行う。	学生の課外活動の支援について、ニーズの確認はできたものの、今後の具体的な支援策、活性化の検討などが求められる。目標の実現は一定程度達成できているが、課外活動の活性化の議論や策定には至らず、自己評価はやや甘いと思われられる。	学生センターや学科を通じ、支援を求める学生グループ等から聞き取りを実施することなどが考えられる。
社会貢献・社会連携	企業、自治体、同窓会等からなるコンソーシアムを設立し、連携を強化するとともに共同事業を推進する。	運用を開始した理系コンソーシアムと連携を強化する。	キャリア相談会など2回以上のイベントを実施する。	S	法政大学理系コンソーシアムを主体としてキャリア相談会や法政科学技術フォーラムを小金井地区で3回、市ヶ谷地区で1回開催し、100社を超える企業様や卒業生にご参加頂いた。	学生の成果発表会のさらなる活性化を進め、企業、自治体、卒業生の皆様の参加数向上を図る。	理系コンソーシアムとの連携行事は、大変盛況に進んでおり、当初の目標が達成、自己評価も適切になされたと判断できる。	引き続き、コンソーシアムとの連携強化等を通じた学生支援、社会連携のさらなる拡充が求められる。他方、こうしたイベントの成功は有志教員の多大な貢献によって成り立っている。今後無理なく継続的な実施ができるような体制づくりについても検討が必要であると考えられる。

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B 目標の達成が不十分である。
- C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
理系コンソーシアムと連携し、企業、自治体、卒業生からの協力を得て、入学志望者の学力レベル向上、学習および研究意欲の向上、在学生・卒業生の評価向上を図る。	理系コンソーシアムおよび理系同窓会と連携し、これまで出来ていなかった高校等との連携を図る。また、キャリア相談会等のイベントを2回以上開催する。
【年度目標達成状況総括】	
理系コンソーシアムおよび理系同窓会、校友会と連携し、企業や自治体との連携拡大を図った。また、キャリア相談会などのイベントを4回開催した。さらに、科学技術フォーラムを開催し、理工学部の研究成果発表会を実施するとともに昨年度からコンソーシアム冠奨学金を導入した。これらの取り組みにより、学生の研究意欲の向上を図った。また、卒業後数年以上たった卒業生を対象にアンケートを実施し、企業から見た各ディプロマ・ポリシーの重要性および達成状況を確認した。その結果、卒業後社会で活動する中でディプロマポリシーの重要性に気付き、自身の達成度に足りない部分を感じていることが明らかとなり、これを教授会へフィードバックした。	